英語学習者の視点から見た副詞outの多義とその理解

Polysemous senses of the English adverb *out* and their understanding
from the viewpoint of learners of English

川　村　義　治
Yoshiharu KAWAMURA

〈要旨〉

英語の副詞 out は典型的な多義語である。本稿では out の多様な語義を担う英文の日本語訳を大学生に課して語義別の理解度を調査した。その結果をもとに，これまでの out の多義研究や認知文法の見解を踏まえて out の多義理解の過程を考察した。調査の結果，誤訳の最も大きな原因が視点のとりかたにあると判明した。out は＜内から外へ＞という関係を意味するが，その関係を内から見るか外から見るかに関して問題があった。また，比喩的な意味の理解に問題があった。抽象的な概念は物理空間における具体的な概念が拡張されて形成されると考えられるが，一般常識という知識の活用を含めて意味を柔軟にとらえる思考の欠如が見受けられた。これまでの多義研究の見解に基づいてこのような誤訳の原因と考えられる要素を様々な観点から検討した。

〈キーワード〉

多義，認知，学習者

1　はじめに

英語の副詞 out は典型的な多義語である。例えば学習者用辞書として評判を得ている『ウィズダム英和辞典第二版』（三省堂）は，語義の説明を空間的な意味から始めて20の項目に分けて記載している。これらの語義のうち，英語学習者には空間的な意味から拡張したと考えられる抽象的な意味のいくつかが当然理解しづらいと予想される。そこで，本調査ではまず out の基本的な語義を担う英文の日本語訳を大学生に課して語義別の理解度を調査した。その結果をもとに学習者の out の多義理解の過程を考察した後，これまでの out の多義研究や認知文法の見解を踏まえて多義理解のあり方を提案する。

2　多義理解調査

2−1　outの多義分類

日常の空間は区切ることによって内部と外部に分けられる。「内」と「外」の対立は，対象の位置，対象の移動性，視点の位置，メタファー思考等の要素が加わって様々な語義を生成する動機づけになっている。

ウィズダム英和辞典は out の原義を「内から外へ」と規定して，20の基本的な語義を＜内から外へ＞＜発生・出現＞＜通常の状態から離れて＞＜消失・完了＞と大きく四つに分けて記述する。

『英語多義ネットワーク辞典』（小学館，p665）は，out の多義構造を認知図式を用いて７つに分類する。１ 閉じた空間の外側に対象がある。視点は空間の内側にあるので焦点となる対象は「外在」と見なされる。２ 同じ図式を用いて空間に焦点を合わせるので対象は「不在」と見なされる。３ 同じ図式で対象が中から外へ移動すると「外出」の意が生じる。４ 対象の拡張によって対象が元の空間から「拡張」する。５ ３と同じ図式を用いて対象が内部から移動する過程を「消去」と捉える。６ 空間からの対象の移動を元の空間からの「逸脱」とみなす。７ ３と同じく対象が空間内から外へ移動する図式を用いるが，今度は視点が外にあるので対象の「外来」と認知する。

『英語前置詞の意味論』（研究社）は，トラジェクターとランドマークという意味役割を用いて out の多義を説明する。それぞれの詳しい説明は後で述べるが，トラジェクターは言語化にあたって最も焦点化されるもの，ランドマークはその次に焦点化されるもので，それぞれゲシュタルト心理学における「図」と「地」に対応する。out の多義構造の説明においては，閉じた空間をランドマーク，焦点化される対象をトラジェクターとみなす。同書は out の多義の内容を＜非定位置＞＜消失＞＜完了＞＜除外＞＜不可

視＞＜可視＞＜公開＞＜分配＞＜再帰＞の概念を用いて説明する。

２－２　課題作成

疎論ではウィズダム英和辞典の４つの分類に基づいてoutの概念を分け，項目ごとにbe動詞と一般動詞を述語動詞とする英文をそれぞれ配置して以下のような課題英文を作成した。

＜内から外へ＞
英文１ My mother is out this morning.
英文２ I looked out of the window.
＜発生・出現＞
英文３ The moon is out tonight.
英文４ His new CD comes out next week.
＜通常の状態から離れて＞
英文５ The printer is out of paper.
英文６ The dress went out of fashion.
＜消失・完了＞
英文７ All the lights were out.
英文８ Many animals died out.

実際の調査では上記の８つの英文をシャッフルしてそれぞれの日本語訳を求めた。調査は３クラス大学１年生100名の学生の協力のもとに実施した。解答時間は５分。解答に際して，推測でかまわないのですべての英文の解釈を書くように求めた。

２－３　調査結果

結果は以下の通りである。４つの意味領域である＜内から外へ＞＜発生･出現＞＜通常の状態から離れて＞＜消失･完了＞は，それぞれ＜空間＞＜知覚＞＜比喩＞＜相＞という名称に変更して区分に分けた。

表１　調査結果

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8
概念領域	空間		知覚		比喩		相	
正解数	159		101		107		130	
正解率	80%		51%		54%		65%	
動詞別	be	一般	be	一般	be	一般	be	一般
正解数	95	64	45	56	60	47	70	60

outの原義が「内から外へ」であることに異論の余地はない。＜空間＞と言うカテゴリーは外部世界における具体的な場面での＜内から外へ＞の出来事を表す。英文１と２はそれぞれ「母親は今朝出かけています」「窓の外を見た」という意味で，日常空間での具体的な経験を述べている。この区分の正答率は80％であった。ただし，be + overの構造を持つ英文１の正答率が95％と高いにもかかわらず，一般動詞のフレーズlooked out ofを持つ英文２の正答率は64％とかなり低かった。

＜知覚＞のカテゴリーに属する英文３と４は人間の具体的な知覚行為に関わって＜発生･出現＞という概念を表す。英文３は「今夜は月がでている」，英文４は「彼の新しいCDは来週発売される」という意味である。この概念区分の正答率は51％で四つの区分の中で最も低くかった。英文３の正答率は八つの英文のなかで最も低く，正しく訳せたのは45名（45％）にすぎなかった。come outを含む英文４の正答率も56％とそれほど高くなかった。

＜比喩＞というカテゴリーに属して＜通常の状態から離れて＞という概念を表す英文５と６は，それぞれ「そのプリンターは用紙切れです」「そのドレスは流行遅れになった」という内容を表す。領域の正答率は54％で，went out of fashionを含む英文６の正答率は47％と低かった。

＜相（アスペクト）＞に区分されて＜消去・完了＞の概念を表す英文７と８は，それぞれ「明かりはすべて消えていた」「多くの動物が絶滅した」と言う意味である。全体の正答率は65％で，英文７と８の正答率はそれぞれ70％と60％であった。

２－４　結果考察

物理空間での＜内から外へ＞を表す英文１と２の訳の正答率が高いのは，外部空間での具体的な経験の描写がoutの基本用法であるので当然の結果であろう。英文１My other is out this morningはmy motherをトラジェクターとして持つが，ランドマークは明記されていない。これは後で説明するように，母親が普段いる場所は家なので，どこから「出る」か当然理解できるとしてランドマークとして明記されなかったと考える。したがって，95人の正解者は意識的あるいは無意識的にそのような認知図式に基づいて「母親は今朝出かけている」と訳したと考えられる。

具体的な空間での＜内から外へ＞がoutの基本義であるならば，英文２I looked out of the windowの正答率が低かった理由は何であろうか。英国英語では一般に副詞outは前置詞として用いないので前置詞ofと結びついて複合前置詞out ofで＜中から外へ＞を意味する。この複合前置詞の意味が理解しづらかった可能性が考えられる。特にofはその概念が理解しづらい前置詞である。『英語前置詞の意味論』はofの概念を「ofは部分―全体の関係と，起源[source]の関係の手掛かりとなる空間辞」であり（p246），「out of はoutとは異なる機能的要素すなわち《起源》を表す」と説明する。この説明に基づくならば，正答率の低さは複合前置詞out ofを「（窓）から外を」と複合的に解釈するのがむずかしかったのかもしれない。米国英語のや

やくだけた表現であるI looked out the windowや日本語の「窓から」に対応するI looked from the windowが課題文であれば正答率が上がり，<空間>全体の正答率もさらに高くなったかもしれない。なお，この英文のランドマークは窓でありトラジェクターは「私」の視線であると考えられるが，言語表現上はIが主語となっている。

outの多義は，物理空間での<内から外へ>という認知が抽象的な概念領域に拡張されて形成されたと考えられる。そこで，<空間>での正答率を基準にして他の領域の正答率を比較すると，<知覚>における正答率の相対的な低さが目を引く。人間の知覚と関わって<発生・出現>という概念を表す英文３と４の正答率はそれぞれ45％と56％で，とりわけ英文３The moon is out tonightは単純な文構造にもかかわらず八つの課題なかで最低であった。誤答として目立ったのは，「今夜は月が出ていない」「月が見えない」という訳で，実に誤訳55例中46例がそのような訳であった。

この誤訳の原因は視点の位置の取り違いによるものであると考えられる。ランドマークである空間内に視点を置くか，あるいは空間の外に視点を置くかによって消去と出現という正反対の概念が形成される。視点が内部にあれば対象は空間から消え，視点が外部にあれば対象は空間から出ると認知される。英文３は出現の典型的な例文である。月は夜空に上って月明かりが人の目に入る。一方，英文７All the lights were outは消去に属する一例である。この英文では視点が空間内に置かれているので「明かりはすべて消えていた」という意味になる。ちなみに英文７の正答率は70%である。二つの例から安易に推測することを控えたいが，被験者である大学生はoutの表す関係を両義的に捉えることに慣れていないのかしれない。

「知覚」カテゴリーに属するもう一つの英文His new CD comes out next weekの正答率は57%であった。この英文でも視点は空間の外にあって，CDが制作されて人の目に触れるという構図になる。誤訳43例中実に38個の訳が「CDが来週届く」「来週来る」という空間での移動を示す内容であった。誤訳の原因は接近というcomeの空間的な意味に頼ったからと考えられる。誤訳38例の内容が空間的な訳であったということは，多数の学生がcome outの比喩的意味を理解できなかったということを示している。句動詞come outは本や映画等が「発売される」「出版される」「公開される」「封切られる」などの意味を表す。comeとoutを一つのまとまりとして出現の意の方向で捉えて，CDがどのような形態で人目に触れるかを想像することができれば，新たな概念を獲得できる道が開かれるではないか。なお，come outの比喩的内容から英文４と次の<比喩>カテゴリーの関係が問われるかもしれない。ここではウィズダム英和辞典の４つの分類に基づいて<比喩>カテゴリーは<通常の状態から離れて>という概念を担うものに限定する。

認知図式に関して言えば，英文３ではmoon，英文４ではCDがトラジェクターである。一方ランドマークはどちらの文でも言語化されていない。それはランドマークが視点として前提となっている当事者あるいは世間一般の人々なので明記する必要がないからだと考える。

英文５The printer is out of paperと英文６The dress went out of fashionは，どちらも<通常の状態から離れて>いる状況を表している。「用紙切れ」と「流行遅れ」である。『英語前置詞の意味論』（ibid，p249）は，outの基本義は<非定位置>であるとして「outはトラジェクターが通常ある位置に存在しないという関係を仲立ちする」と説明する。英文１では母親が本来いるはずのホームから出ている（out）ので「外出している」と解釈された。用紙は当然プリンター内にある状態が印刷するうえで望ましく，ドレスは流行のファッションであるのが望ましいとすれば，<通常の状態から離れて>いるので「用紙切れ」「すたれている」という意味が生成される。英文を正確に訳するには，英語表現自体の理解のほかに表現を取り巻く経験や広い意味での知識が問われるのかもしれない。なぜならプリンターと用紙の意味関係は，プリンターが使用される日常経験からおおよそ推測できるからである。

英文５はここでは<比喩>という区分に入れてあるが，実際の空間関係を表しているので厳密には比喩表現ではない。英文の内容に分かりづらい点があるとすれば，英語の語順の問題である。文字通り訳すと<プリンターが用紙から出ている>となる。実際，誤訳として目立ったのは，「プリンターから紙が出てくる」という直訳で12例あった。これは英文５においてprinterとpaperの位置が入れ替わっているからである。国広哲弥氏によれば，このような交替表現は「代換表現（hypallage）という表現上の変形の一種」である（『英語前置詞の意味論』，p324）。国広氏の論法を借りるならば，複合前置詞out ofの目的語の位置にあるべきprinterが主語の位置へ移動したのは，printerに表現の焦点があるからだと説明できる。本来は用紙がトラジェクターであり，用紙が置かれているprinterが当然ランドマークである。ただし，printerをトランジスター，paperを紙がある状態あるいは領域と抽象的にとらえることも可能でだろう。

英文６The dress went out of fashionの正答率は47%と低かった。その理由はいくつか考えられる。英文６は一種のメタファー表現である。そこでは，<状態は場所><状態の変化は移動>という認知の枠組みが適用されている。この枠組みに従えば，dressがトラジェクターとして流行

という領域から立ち去って「すたれる」という図式である。この比喩的関係が見えないと内容が正確に読み取れない。

誤訳のもう一つの要因は複合前置詞句 out of fashion のとらえ方であった。誤訳53例のうち少なくとも23個が＜流行の状態から出る＞ではなくて＜流行の状態に出る＞と解釈して「ドレスは流行した」と訳していた。これは out of fashion という統語関係を無視して「出る」と「流行」の意味だけを勝手につなげて解釈した結果であろう。その際，動詞 go の意味をもっと考慮すれば違った結果になったかもしれない。一般に come は come true，come alive のようにポジティエブな意味を表す語彙とともに用いられる傾向があるのに対して，go は go bad，go crazy のようにネガティブな意味を表す語彙と結びつく傾向がある。このような知識や語感があれば誤訳を回避する可能性が高まると考えられる。

英文７と英文８は相（アスペクト）という区分でまとめた。英文７All the lights were out で out が担うのは消失であり，完了の概念は all との関係で生じてくる。したがって，英文７をアスペクトに関連づけるのは適切ではないかもしれない。ただし，ウィズダム英和辞典が＜消失・完了＞をひとつの概念領域として記載しているのはそれなりの理由があると考える。有限の領域 (ランドマーク) 内にある対象（トラジェクター）が「内から外へ」出ることが消失であるが，トラジェクターがすべて消失すれば完了の意を動機づけることが可能である。なお，英文７におけるトラジェクターは all the lights であり，ランドマークは言語化されていないが当事者 us あるいは当事者が存在する領域となる。

国広（ibid, p325）はアスペクトを動機づけるひとつの条件として状態変化のとらえ方を問題にする。「人間は言語以前の認知の段階で変化を途中の過程で捉えるか，変化が終了した段階で捉えるか，二通りの認知をするものと考えられる．前者を未完了アスペクト，後者を完了アスペクトと呼ぶ」と解説する。

英文８Many animals died out は「多くの動物が絶滅した」という意味である。訳の判定は「絶滅する」「死に絶える」と明記していないあるいは示唆していない訳を誤訳とした。したがって誤訳には，単に「多くの動物が死んだ」という訳が目立った。絶滅すると解釈するには，まず animals が個々の動物を指しているのではなく種としての動物を意味していることを把握する必要がある。「多くの動物」という訳はその点が不明瞭である。そのうえで，die out として out が表現されている理由を探らなければならない。トラジェクターである種としての動物が当事者の存在領域から完全に失われたという了解のもとで正しい意味理解が成立する。つまり種の完全な死が「絶滅」である。ただし，受験勉強は die out を「絶滅する」と符合的に記憶することを強いる傾向があるので，正しい訳を書いた被験者すべてが out から変化が完了した事態を理解したと断定はできない。

３　今回調査から示唆されること

３－１　多義の枠組み

今回の調査は空間辞である副詞 out の多義理解のあり方を知ることが目的であった。out の多義を四つに分けてそれぞれに be 動詞と一般動詞を用いた例文を配して日本語訳を求めた。その訳を分析の材料にして out の多義理解について考察した。

疎論は副詞 out の多義分類をウィズダム英和辞典の分類にならった。当辞典は＜内から外へ＞を原義として out の多義を＜内から外へ＞＜発生・出現＞＜通常の状態から離れて＞＜消失・完了＞の四つに分けている。このような分類に従ったのは，物理空間で具体的な「内」と「外」の関係を基本義にしていること，その他の概念を具体的な＜内から外へ＞という概念と関連づけて区分していると判断したからである。

＜発生・出現＞という概念は＜内から外へ＞と同じく外部空間での具体的な知覚経験に関わる内容である。英文３The moon is out tonight は日常生活における具体的な知覚経験を表している。英文４His new CD comes out next week における come out は，物理空間における＜内から外へ＞の変化が店頭への＜登場＞に拡張されて「発売される」という比喩的な意味を持つ。ただし，製品が新たに人目に触れるという点においては知覚的な要素を持つ。

＜通常の状態から離れて＞というカテゴリーに属する英文５と６は「比喩」という名前でまとめた。なぜ out が通常の状態から離れるという語義を担うかと言えば，『英語前置詞の意味論』が指摘する＜非定位置＞という本義に関わるからである。対象が内から外へでるとは，本来在るべき場所にある対象がその場所から出るあるいは存在しないということである。物理空間上の定位置にない状態が多様な概念領域に投射されて様々な＜逸脱性＞を生成するのである。このような意味作用を「比喩」と名付けたわけである。英文５の out of paper は paper が物理的な紙ではなく，紙がある状態あるいは紙がある領域ととらえると比喩性が高まる。英文６の out of fashion が「すたれる」という比喩的な意味を持つは流行の様式から外れるからである。

英文７と８は相（アスペクト）というカテゴリーでまとめた。ウィズダム英和辞典では＜消失・完了＞という区分に相当する。アスペクトとは動作の過程を区分する文法カテゴリーである。安藤貞雄氏は『現代英語文法講義』（開拓社，p70）の中で英語のアスペクトに関して次のように

述べている。「動詞の表す動作・状態が＜基準時＞に完了しているかいないか＜完了：非完了＞，あるいは，継続しているかいないか＜継続：非継続＞（または＜進行：非進行＞）といった，動作の様態を示す文法範疇である」とする。

一方前述したように，国広氏は「変化を途中の過程で捉えるか，変化が終了した段階で捉えるか」という観点からアスペクトを完了か未完了かに分ける。安藤説と国広説は矛盾するものではなくて，安藤説は英語の完了形と進行形という形態にそって説明したので，非完了に継続・進行を含めれば同じ分類になる。一般にひとつの動作は始動，進行，完了の相など様々な観点から捉えることができる。そのうち最も大きな区分が完了か未完了かという点であり，どのように表現するかは個々の言語によって異なるわけだ。

以上，今回の調査の枠組みとなるウィズダム英和辞典の四つの分類に基づいたoutの概念に関する検討結果をまとめると次のようになる。一番目に，空間辞outは多様な概念領域における＜内から外＞の関係性を表す。二番目に消失あるいは出現という知覚的な概念は視点の問題と関係する。三番目に空間での定位置での不在が様々な意味領域に投射されて多様な逸脱性を表す。四番目に消失の概念に動機づけられて人間の本質的な認知の在り方としての完了性を表す。

3－2　視点とはなにか

The moon came outは「月が出た」と月が現れることを意味する。一方，The light went outは「明かりが消えた」と光が消滅したことを意味する。同じ言葉が出現と消滅という正反対に思われる意味を表しているので混乱を引き起こしかねない。この問題を解決するには二つの課題が考えられる。一つは出現する主体は何かを統語的に考えることである。例えばcome outは，それまで隠れていた太陽，月，星といった対象が主語になる。輝く物体が出現するのである。一方go outは，電燈の明り，火，ろうそくの火を主語にとる。物ではなくて物の光や火が消滅するである。

もう一つが視点という問題である。＜内から外へ＞と言うとき，対象の移動や位置を「内」から見るのか「外」から見るのかという視点である。今回の調査では英文３The moon was out tonightの誤訳が一番多かった。誤訳55例のうち実に46個が「月は見えなかった」と訳したのは，多分にこの視点のとり方を間違えたからであろう。視点はこの英文だけの問題ではなく，いずれの英文の理解においても程度の差はあれ関連する。とりわけ，ランドマークが明記されていない英文７All the lights were outと英文８Many animals died outの解釈は，明記されていない当事者の側に視点を置いて明かりや動物がそこから消滅したと判断する必要がある。

視点を投影してoutをめぐる関係性を理解するためには，まず何がランドマークなのか把握していなければならない。山梨氏の言葉を借りるならば，「言葉には，外部世界にたいするわれわれの把握のしかたや解釈のモードが反映している」（『認知言語学原理』，p19）からである。トラジェクターとランドマークはゲシュタルト心理学における図と地に対応する概念である。認知領域に複数の対象があるとき，人間はある対象を別の対象との関係で認知する傾向を持つ。焦点化される対象がトラジェクターであり，トラジェクターの位置を定める背景あるいは認知の基準点となるのがランドマークである。基準点を明確に把握しないとトラジェクターの変化や状態が確定しない。そのうえ，ランドマークは必ずしも明記されるわけではなく，日本語の論理をそのまま英語に持ち込むことも危険である。outを含む英文の解釈には＜内から外へ＞の関係性の前提となるランドマークを把握して，ランドマークの内か外のどちらかに視点を置いてトラジェクターの様態を読み取ることが求められる。

４　outの多義研究からの示唆

４－１　多義研究の出発点

英文９ He squeezed some toothpaste out.

英文10 He washed the dirt out.

Lindner（1983）は空間辞out の多義を認知作用の観点から詳細に検討した最初の研究である。英語教育という点から見ると上記の例文に関する記述が役立つ。英文９は「歯磨き粉を絞り出した」という意味である。toothpasteは動詞squeezeの目的語であるが「絞る」動作の対象ではない。toothpasteがoutの意味する＜内から外へ＞という関係におけるトラジェクターであるならば，ランドマークは歯磨きペーストが入っているチューブである。Lindner（p63）は，ランドマークが明記されていなくともoutが歯磨きペーストが容器に入っている（in）ことを示唆していると指摘して，一般常識としての生活上の知識も英文の理解を助けると述べるている。動詞squeezeはsqueeze a lemonのように「絞る」対象を目的語にとる構文が基本である。したがって，outが指示する関係をしっかり把握することは英文９のような文を正確に解釈するうえで欠かせない。「洗う」対象が明記されていない英文10の理解も同様である。広い意味での一般知識に支えられながらdirtと汚れの付いた物（ランドマーク）の関係を解釈することになる。

4－2　句動詞のおけるout

副詞 out はしばしば句動詞の一部として使用される。課題テストの英文に含まれていた come out や die out は典型的な句動詞で，動詞との組み合わせで新たな意味を形成する。句動詞における out の理解に関して知るには Morgan（1997）が役立つ。Morgan は認知意味論の観点から句動詞における out の意味を検討した。Morgan は，動詞＋不変化詞という構造において，動詞は句動詞の内容が属する概念領域を示し，不変化詞はイメージスキーマと呼ばれる一種の認知パターン示すという立場に立つ。そこで重要なことは，基盤となる概念領域と認知パターンがそれぞれ比喩的な内容を持つ可能性があることである。

英文11 He figured out the way to San Jose / the way to boil water.
英文12 Try to figure out how to do it.
英文13 Figure out the solution.

上記の英文では figure はいずれも基本義である「数字」や「計算する」という概念とは直接関係しない。Morgan によれば，figure が示しているのは「考えることで解決策を得る」（reaching a solution by thinking）という内容である。一方，out が示す概念は空間に出現する意から「入手できる」「利用できる」という意味に拡張している。例えば英文13は「解決策を見つけなさい」という意味である。このような意味の拡張を促す背景には，＜思考は計算すること＞＜問題は閉じた容器である＞という比喩的な見方が英語を支える概念の一部としてあると Morgan は（p343）考える。このような認知意味論的見解に立つならば，out を含む句動詞の理解には言葉の意味を想像力を豊かにしてとらえる思考が求められる。

5　まとめ

本調査は out の基本的な語義を担う英文の日本語訳を大学生に課して語義別の理解度を調査した。その結果をもとに学習者の out の多義理解の過程を考察した後，これまでの out の多義研究や認知文法の見解を踏まえて多義理解のあり方を検討してきた。

以下，今回の分析をまとめると次のようになる。空間辞 out の基本義は物理的空間における＜中から外へ＞という関係概念である。その関係性はトラジェクターとランドマークという要素から成立している。out の多義は基本義が他の抽象的な領域に拡張して生成した。このような前提のもとで，out および out を取り巻く表現の理解には次の点に注意する必要がある。

out を取り巻く表現を安易に物理的な関係で解釈してはいけない。out は人間の知覚経験と結びつく概念を持つので，中と外の関係を見つめる「視点」の位置を意識する必要がある。「空間」としてのランドマークは言語化されるとは限らないので，文脈から読み取って表現全体の意味を理解することが求められる。out は動詞と結合して比喩的な意味を持つ句動詞として表現されることが多い。その際，動詞と out がそれぞれ比喩的概念を担って新たな意味を形成している可能性がある。また，out は物事の＜完了性＞を表すことがある。

参考文献

安藤貞雄（2005）現代英文法講義．開拓社
井上永幸＆赤野一郎（2007）ウィズダム英和辞典．三省堂
瀬戸賢一他（2007）英語多義ネットワーク辞典．小学館
アンドレア・タイラー＆ビビアン・エバンス（2005）英語前置詞の意味論．研究社
山梨正明（2000）認知言語学原理．ひつじ書房
Lindner, Susan (1983) A Lexico-Semantic Analysis of English Verb Particle Constructions with out and up. Indiana University Linguistics Club
Morgan, Pamela（1997）Figure out *figure out*: Metaphor and the semantics of English verb-particle construction. Cognitive Linguistics. Volume 8-1, p327-358